

中医体質九分類による明日葉青汁の評価

○許 鳳浩¹⁾、大野木宏²⁾、橋本慎太郎³⁾、川端克司⁴⁾、鈴木信孝¹⁾

1) 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科臨床開発研究部門補完代替医療学 2) タカラバイオ株式会社
3) 大名町スキンクリニック 4) NPO 法人代替医療科学研究センター

【目的】

明日葉青汁は、摂取により血糖関連指標の改善や内臓脂肪面積の減少が報告されるなど、生活習慣病の予防に果たす役割に注目が集まってきた。そこで今回、中医学体質九分類の視点から、明日葉青汁が未病体質改善作用を有するか否かについて検討した。

【方法】

20～70才の健常成人30名を対象に、明日葉青汁(タカラバイオ株式会社製)3g/包を1日2包朝1回、計8週間連日摂取させた。体質調査票は、CCMQ-J ver.2.0を用い、摂取前、4週間目、8週間目に記載させた。統計解析は群間比較、一元配置分散分析を用い、有意水準は0.05未満、傾向水準は0.1未満とした。なお、本試験は日本補完代替医療学会・倫理審査委員の承認を得た後、書面によるインフォームド・コンセントを取得した上で実施した。

【結果】

明日葉青汁の摂取により、健康体質である平和質の標準得点は経時的に有意に増加し、未病体質である気虚質と陰虚質得点は有意に減少した。さらに、痰湿質、湿熱質、気鬱質は、摂取8週目に標準得点

の有意な減少がみられ(paired t 検定)、一元配置分散分析では減少傾向を認めた。一方、血瘀質、特稟質は、摂取8週目に標準得点の有意な減少を示したが(paired t 検定)、一元配置分散分析では有意差がみられなかった。陽虚質は摂取初期(4週目)に変化を示すのみであった。

【考察】

明日葉には、抗菌活性や血管拡張作用、抗潰瘍および胃酸分泌抑制、抗炎症あるいは血液凝固に関連する効果などの報告もみられている。今回、中医体質学的な視点によって、明日葉青汁は、総合的な健康度の上昇(平和質)のみならず、気を補い(気虚質)、身体を潤す(陰虚質)作用を有する可能性が示唆された。また、メタボ体質(痰湿質)やうつうつ気分を主徴とする気鬱質に好影響を与える可能性が示された。一方、冷え性を主徴とする陽虚質や血液循環の不調(血瘀質)への影響は不明確であった。

【結論】

明日葉青汁の摂取は、気を補い、からだを潤し、健康度を向上させた。また、メタボ体質や気鬱質などに好影響を与える可能性が示唆された。